

レファレンス

コーナー

社会保障制度——発展途上国の事例

佐々木茂子

近年わが国では、失業率の増加、近づきつつある高齢化社会等を背景に、年金をはじめとする社会保障制度に高い関心が寄せられている。従来、社会保障制度に関する研究は、先進諸国の福祉国家論が中心であったが、最近では発展途上国の制度の比較研究が増えている。当研究所では本誌二〇〇一年二月号で「発展途上国の社会保障」という特集を組み、八カ国について現状と問題点を提示した。また、いくつかの研究成果も刊行されている。本コーナーでは、主に発展途上国の社会保障・社会福祉に関する最近の文献を紹介する。

仲村優一・一番ヶ瀬康子編『世界の社会福祉』（旬報社 一九九八年）は社会福祉の概要を、その背景となる各国の歴史と文化、風土に触れながら解説している。第三巻にアジア、第一二巻にアフリカ・中南米・スペインを収める。

雇用・失業等の労働情勢を分析しながら、アジアを含む諸外国の社会保障について報告しているのは、厚生労働省編『海外情勢白書 2000』2001年 経済・雇用・労働・社会保障の現状と動向（日本労働研究機構 二〇〇一年）である。

一方、厚生年金連合会編『海外の年金制度 日本との比較検証』（東洋経済新報社 一九九九年）は、特徴的な年金制度を持つ国々について、各国各様の制度とその背景を紹介し、日本の制度との比較検証を試みる。発展途上国の事例としては、チリとシンガポールを取り上げている。

末廣昭・小森田秋夫編『自由化・経済危機・社会再構築の国際比較 アジア、ラテンアメリカ、ロシア／東欧 第一部 論点と視角』（東京大学社会科学研究所 二〇〇一年）においては発展途上諸国の社会政策に関する研究状況の報告と文献解説を収めている。

当研究所の地域研究者が中心となり、国家が民主主義体制を取った場合、経済および社会にどのように作用するのかという観点から検討を行ったのは、佐藤幸人編『新興民主主義国の経済・社会政策』（アジア経済研究所 二〇〇一年）である。

また、宇佐見耕一編『ラテンアメリカ福祉国家論序説』（アジア経済研究所 二〇〇一年）ではラテンアメリカの福祉国家の特徴を雇用政策と社会保障政策に焦点を当てて論じている。

グローバル化があらゆる分野で進んでいる現在、福祉も例外ではない。藤田雅子『国際福祉論 スウェーデンとバングラデシュの開発を結ぶ』（学文社 二〇〇〇年）ではバングラデシュにおけるスウェーデンの「開発協力」の現状を報告する。援助を受ける国の実情に合わせて、開発能力を育てる姿勢は、わが国にとっても参考となるだろう。

障害者福祉に関しては、二ノミヤ・アキエ・ヘンリー『アジアの障害者と国際NGO、障害者インターナショナルと国連アジア太平洋障害者の一〇年』（明石書店 一九九九年）がアジアにおける障害者政策と「障害者インターナショナル」の活動を報告している。

国別にみると、中国に関する文献が多い。改革・開放政策により、飛躍的な経済発展を遂げた一方で、国有企業改革は多くの失業者を生み出している。社会保障制度の改革と拡充は今や中国の重要な課題のひとつである。李秀英『中国における社会福祉政策の展開状況に関する研究』（アジア女性交流・研究フォーラム 一九九九年）は中国の福祉政策全般について分析し、朱炎『中国の社会保障制度の整備と国有企業改革』（富士通総研経済研究所 二〇〇〇年）は国有企業改革の一環として導入された社会保障制度のなかでも、年金保険と医療保険に焦点を当ててその効果を検討する。その他にも中国研究所編『中国は大丈夫か？ 社

会保障制度のゆくえ』（二〇〇一年）、日中経済協会編『中国の政治経済動向 中国の都市部失業者の増大がもたらす社会への影響』（日中経報 二〇〇〇年）などがあげられる。また、『海外保障研究』（国立社会保障・人口問題研究所）の二〇〇〇年秋号では、中国の社会保障改革と企業行動の特集を組んでいる。

台湾への進出を考えている日本企業にとって参考となるのは、交流協会編『台湾における労働法と社会保障制度の概要』（二〇〇〇年）である。最近大きな修正が行われた「労働基準法」を中心に、複雑な社会保障制度についても的を絞って解説している。

シンガポールでは高齢者福祉が大きな課題となっている。わが国よりも速く高齢化が進んでおり、ジョン・アン『シンガポールの高齢化と社会福祉 アジア型社会福祉から学ぶもの』（川島書店 一九九七年）では、家族を福祉の基幹として位置づけ、アジア社会型の価値観を社会政策の基本理念とする同国の現状が紹介されている。

社会の構成員が安心して暮らせるようなシステムの構築は、世界共通の目標であるが、本コーナーで紹介した文献から、各国の様々な試みを読み取ることができる。

（佐々木 茂子）しげこ／図書館書誌参考課課長代理